様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　５ 月 ３０ 日現在

機関番号：１１３０１

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：２０Ｋ０２４７８

研究課題名（和文）近代西欧の教育思想と現代日本の道徳教育－道徳教育の学的基礎づけへ向けて－

研究課題名（英文）The Educational Thought of Modern West-Europe and the Moral Education of Contemporary Japan: Toward the Academic Foundation of Moral Education

研究代表者

笹田　博通（SASADA, Hiromichi）

東北大学・教育学研究科・名誉教授

研究者番号：８０１５４０１１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：(1)西欧・日本の道徳教育観と教育、道徳、宗教、自然をめぐる学問的観点との関係を明らかにした。(2)近代から現代にかけての日本が、西欧の道徳教育観の受容により、日本人の精神形成の基盤を構築した過程について検証した。(3)西欧・日本の道徳教育観の今日的意義、及び現代教育学に対するインパクトを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は今日の道徳教育観の源流、すなわち、近代西欧・日本の教育思想、道徳思想、宗教思想、自然思想に遡及し、そこから、道徳教育の本質を学問的に探査することで、今日の道徳教育観の有力な指標を提示した。その成果については、学術誌『プロテウス―自然と形成―』及び『日本仏教教育学研究』での論文発表、「日本ヘルダー学会」でのシンポジウム発表、科研費研究成果報告書での論文発表等の形式において公表した。本研究の成果を広く社会に還元したことで、それは一定の学術的意義、社会的意義を具えることができたと考える。

研究成果の概要（英文）：(1) This research clarified the relationship between the views of moral education in West-Europe and Japan, and the academic aspects of education, morality, religion and nature. (2) This research also verified the process, in which the modern and contemporary Japan, by accepting the views of moral education in West-Europe, founded the spiritual formation of the Japanese. (3) This research finally elucidated the present meaning of the views of moral education in West-Europe and Japan, and their impact for the contemporary pedagogy.

研究分野：教育哲学

キーワード：道徳教育　教育学　道徳観　宗教観　自然観

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

本研究に携わった者たち（教育学、ドイツ文学、園芸学）は、1988 年に「仙台ゲーテ自然学研究会」を創設し、予てより、ゲーテ自然学に関連した諸文献の研究、国内外の研究者を招いての講演会開催、学術誌『プロテウス—自然と形成—』の刊行（1993 年に創刊し、2024 年現在、23 号まで刊行）、論文集『多元的文化の論理—新たな文化学の創生へ向けて—』（東北大学出版会、2005 年）、『教育的思考の歩み』（ナカニシヤ出版、2015 年）の出版、カールスルーエ教育大学（ドイツ）との学術交流、ゲマインシャフツシューレ（ドイツ）等への訪問、科学研究費補助金での共同研究（「自然と教育—ゲーテ自然学の周辺と人間形成観の現在—」〈2009—2011 年度〉、「１８世紀啓蒙主義の自然観と現代の教育哲学」〈2013—2016 年度〉、「宗教と教育—啓蒙時代の宗教観および自然観を起点に—」〈2017—2019 年度〉）の実施、日本ヘルダー学会におけるシンポジウムの企画・開催など、種々の研究活動を行って多大な成果を上げ、専門分野の枠を超えた研究実績を着実に積み重ねていた。

その背景には、本研究の協力者たる森淑仁・東北大学名誉教授の一連の翻訳活動、すなわち『カッシーラー：ゲーテ論集』、『象徴形式の形而上学——エルンスト・カッシーラー遺稿集』、『ゲーテ＝シラー往復書簡集』、カッシーラー『ゲーテとドイツ精神史——講義・講演集より』等の上梓による触発があった。

われわれはこのように、共通の課題意識（「自然と形成」）のもと、長きにわたって学際的な共同研究を続けていたわけであるが、2017 年、本研究の代表者・分担者らに『考える道徳教育——「道徳科」の授業づくり』（福村出版、2018 年）なるテキスト作成の機会が与えられ、研究代表者たる笹田博通（編著者）、研究分担者たる相澤伸幸（同）、小池孝範（分担執筆者）及び寺川直樹（同）が幾度も編集会議を開催し、テキストの執筆内容に関する討議を重ねていった。そのさい、学習指導要領改訂や「道徳の教科化」など、道徳教育に関する戦後の制度的、カリキュラム的改革のみならず、道徳教育の内容自体も抜本的に探査されるべきところ、その作業は、これまでの教育学研究において十分に行われておらず、そこには更なる議論の余地がある、という点をあらためて確認することができた。

2019 年、それまでの科研費研究の成果を点検・反省するといった自己評価を行ったさいも、われわれは、昨今の重要案件たるグローバル化、価値観の多様化、環境問題及び SDGs (Sustainable Development Goals) への道徳教育の関わりが看過されえず、そのあり方をめぐる探究が不可欠であるという点を認識し、こうした課題と重ね合せることで、今回の科研費研究の課題（＝「近代西欧の教育思想と現代日本の道徳教育—道徳教育の学的基礎づけへ向けて—」）が設定されるに至った次第である。

２．研究の目的

本研究の目的は、近代から現代にかけての西欧と日本の道徳教育観を教育観、道徳観、宗教観及び自然観との関わりから多角的・重層的に探究すること、さらに、近代日本が西欧の道徳思想を学問としていかに受容したかを考察することで、道徳教育観の今日的意義、現代教育学に対するインパクトを解明することにあった。こうした目的を実現するために本研究の基軸としたのが、近代西欧の教育思想、とりわけ啓蒙時代（18 世紀）の教育思想であり、教育（人間形成）、道徳 、宗教及び自然に関する啓蒙時代の思索を共通の基盤に、まずは、近代日本の学問（教育学、哲学、宗教学、自然科学など）における道徳思想、宗教思想、自然思想受容の系譜を明らかにしていった。つまり、本研究では近代西欧の教育思想を一つの基点としたうえで、西欧の道徳教育観と日本のそれとの関係を原理的に検討し、そこから、今日の社会が取り組むべき課題を通時的視点で析出することによって、現代教育学の新たな局面と役割を具体的に提示することが目指された。

３．研究の方法

(1) 西欧・日本の道徳教育観とそれに関わる文献（教育学・教育思想、教育〈思想〉史、道徳教育思想、宗教学、近代精神史、近現代哲学）の調査・読解
(2) 海外（スイス）での実地調査
(3) 定期的に開催される研究会（オンライン）での討議

４．研究成果

上記研究目的との関連で本研究は三つの課題を設定した。すなわち、①西欧・日本の道徳教育観とそれに繋がる学的諸観点（教育、道徳、宗教、自然など）との関係の考察、②近・現代の日本における西欧の道徳教育観の受容過程に関する探査、そして、③道徳教育観（西欧、日本）の今日的意義と現代教育学へのインパクトをめぐる検討である。

課題①に関しては、研究分担者・佐藤安功（教育学）、同・寺川直樹（教育学）が、ルソー並びに現代哲学（佐藤）、ヘルダー（寺川）を中心に、西欧の道徳教育観とそれの学的諸観点との関係を考察した。また、日本の道徳教育観とそれの学的諸観点との関係については、研究代表者・

笹田博通（教育学）が、今北洪川、釈宗演、鈴木大拙らの近代仏教思想、さらに、大西祝、綱島梁川、西田幾多郎らの近代哲学思想をもとに検討した。
　課題②に関しては、研究分担者・相澤伸幸（教育学）、同・小池孝範（教育学）が、近代日本における西欧の道徳教育観の受容過程を、ひいては、この受容に伴う精神形成の基盤構築の過程を、「スペンサーの思想と明治日本のアカデミズム」（相澤）、さらに、「明治初期における西洋道徳観の受容と展開」（小池）という視点から検証した。
　課題③に関しては、課題①及び課題②の研究をふまえながら、研究代表者、研究分担者（４名）及び研究協力者（３名）によるオンライン形式の研究会（計 11 回）で討議し、今日の教育学研究における新たな問題意識を明らかにしようとした。（なお、研究会で各課題に関する討議を行ったさい、研究協力者・森淑仁〈ドイツ文学〉が、近代西欧・日本の哲学のゲーテ理解に関する専門的知識を、同・松山雄三〈ドイツ文学〉が、18 世紀啓蒙時代の道徳観・宗教観等に関する専門的知識を、同・金浜耕基〈園芸学〉が、近代西欧・日本の園芸学の成立過程に関する専門的知識を提供した。）
　各課題に関する研究成果については、『プロテウス－自然と形成－』（仙台ゲーテ自然学研究会機関誌）及び『日本仏教教育学研究』　（日本仏教教育学会機関誌）での論文発表、「日本ヘルダー学会」でのシンポジウム（「近代西欧の道徳・人間形成観の展開と明治日本での受容」）発表、科研費研究成果報告書（『近代西欧の教育思想と現代日本の道徳教育―道徳教育の学的基礎づけへ向けて―』）での論文発表等の形式において公表した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計25件（うち査読付論文　23件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 笹田　博通	４．巻 23
２．論文標題 道徳・宗教・自然（４）－日本人の道徳教育観の基底－	５．発行年 2024年
３．雑誌名 仙台ゲーテ自然学研究会『プロテウス－自然と形成－』	６．最初と最後の頁 39-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 小池　孝範	４．巻 23
２．論文標題 近代における戒律復興運動と曹洞宗－その受容と展開－	５．発行年 2024年
３．雑誌名 仙台ゲーテ自然学研究会『プロテウス－自然と形成－』	６．最初と最後の頁 65-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 寺川　直樹	４．巻 23
２．論文標題 ムーニエ『人格主義』にみる人格・自由・行為の関係－人間形成の視点から－	５．発行年 2024年
３．雑誌名 仙台ゲーテ自然学研究会『プロテウス－自然と形成－』	６．最初と最後の頁 21-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 笹田　博通	４．巻 22
２．論文標題 道徳・宗教・自然（３）－日本人の道徳教育観の基底－	５．発行年 2023年
３．雑誌名 仙台ゲーテ自然学研究会『プロテウス－自然と形成－』	６．最初と最後の頁 99-114
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 佐藤　安功	4．巻 22
2．論文標題 レヴィナスにおける享受 la jouissance と両義性	5．発行年 2023年
3．雑誌名 仙台ゲーテ自然学研究会『プロテウス－自然と形成－』	6．最初と最後の頁 5-98
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 相澤　伸幸	4．巻 22
2．論文標題 スペンサーの進化的思考の源流－近代日本における教育思想の夜明け前－	5．発行年 2023年
3．雑誌名 仙台ゲーテ自然学研究会『プロテウス－自然と形成－』	6．最初と最後の頁 115-130
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小池　孝範	4．巻 22
2．論文標題 明治初期における愛国思想の展開と曹洞宗での受容－教化思想の形成をめぐって－	5．発行年 2023年
3．雑誌名 仙台ゲーテ自然学研究会『プロテウス－自然と形成－』	6．最初と最後の頁 131-154
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小池　孝範	4．巻 38
2．論文標題 明治前期における教化・教育政策と僧侶養成の近代化－曹洞宗における状況を中心に－	5．発行年 2023年
3．雑誌名 『駒澤大学教育学研究論集』	6．最初と最後の頁 25-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 寺川　直樹	４．巻 22
２．論文標題 Th．リップスの感情移入論に関する批判的検討－ヘルダー、H．シュミッツとの比較を交えて－	５．発行年 2023年
３．雑誌名 仙台ゲーテ自然学研究会『プロテウス－自然と形成－』	６．最初と最後の頁 59-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 寺川　直樹	４．巻 69
２．論文標題 自由と人格形成－ベルジャーエフを手がかりに－	５．発行年 2023年
３．雑誌名 大谷大学哲学会『哲學論集』	６．最初と最後の頁 44-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 寺川　直樹・小山　誠南	４．巻 5
２．論文標題 道徳教育における自由－概念史および戦後道徳教育史の視角から－	５．発行年 2023年
３．雑誌名 大谷大学初等教育学会『大谷大学初等教育学会研究紀要』	６．最初と最後の頁 42-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 笹田　博通	４．巻 21
２．論文標題 道徳・宗教・自然（２）－日本人の道徳教育観の基底－	５．発行年 2022年
３．雑誌名 仙台ゲーテ自然学研究会『プロテウス－自然と形成－』	６．最初と最後の頁 95-118
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 笹田　博通	４．巻 30
２．論文標題 不安と安心の彼方－仏教教育との関連において－	５．発行年 2022年
３．雑誌名 日本仏教教育学会『日本仏教教育学研究』	６．最初と最後の頁 17-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 佐藤　安功	４．巻 21
２．論文標題 レヴィナスにおける超越と言語	５．発行年 2022年
３．雑誌名 仙台ゲーテ自然学研究会『プロテウス－自然と形成－』	６．最初と最後の頁 73-94
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 相澤　伸幸	４．巻 21
２．論文標題 森有礼の思想にみるＨ・スペンサーの影響－『倫理書』を参考にして－	５．発行年 2022年
３．雑誌名 仙台ゲーテ自然学研究会『プロテウス－自然と形成－』	６．最初と最後の頁 119-130
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 小池　孝範	４．巻 21
２．論文標題 明治前期の秋田県における道徳教育の状況－「学制」から「改正教育令」期における「教則」を中心に－	５．発行年 2022年
３．雑誌名 仙台ゲーテ自然学研究会『プロテウス－自然と形成－』	６．最初と最後の頁 131-160
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 寺川　直樹	4．巻 21
2．論文標題 自然への共感に向けた一考察－ヘルダーの人間形成論を手がかりに－	5．発行年 2022年
3．雑誌名 仙台ゲーテ自然学研究会『プロテウス－自然と形成－』	6．最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 寺川　直樹	4．巻 30
2．論文標題 孤独の意義と不安の超克－原始仏教およびショーペンハウアーの視点から－	5．発行年 2022年
3．雑誌名 日本仏教教育学会『日本仏教教育学研究』	6．最初と最後の頁 201-216
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 寺川　直樹	4．巻 4
2．論文標題 多文化共生およびその実現に向けた道徳教育に関する一試論 －ヘルダーの人間性形成思想を手がかりに－	5．発行年 2022年
3．雑誌名 長野県立大学健康発達学部こども学科『こども学研究』	6．最初と最後の頁 61-83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 笹田博通	4．巻 20
2．論文標題 道徳・宗教・自然（１）－日本人の道徳教育観の基底－	5．発行年 2021年
3．雑誌名 『プロテウス－自然と形成－』	6．最初と最後の頁 99-119
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 佐藤　安功	４．巻 20
２．論文標題 一視点からみた道徳教育　－〈ひと〉と実存－	５．発行年 2021年
３．雑誌名 『プロテウス－自然と形成－』	６．最初と最後の頁 75-97
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 相澤伸幸	４．巻 20
２．論文標題 明治期の師範学校における倫理と修身の再構築 －京都府（尋常）師範学校を参考にして－	５．発行年 2021年
３．雑誌名 『プロテウス－自然と形成－』	６．最初と最後の頁 121-138
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 小池孝範	４．巻 20
２．論文標題 明治初期における教化指針としての「三条教則」と仏教 －三条教則に対する曹洞宗の対応から－	５．発行年 2021年
３．雑誌名 『プロテウス－自然と形成－』	６．最初と最後の頁 139-161
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 寺川直樹	４．巻 20
２．論文標題 ヘルダーの自己移入論 －人間形成の視点から－	５．発行年 2021年
３．雑誌名 『プロテウス－自然と形成－』	６．最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 寺川直樹	4．巻 3
2．論文標題 A Consideration of Berdyaev's Theory of Personality Development-Comparing to the Idea of Humanity Formation by Herder-	5．発行年 2021年
3．雑誌名 『こども学研究』	6．最初と最後の頁 1-21

掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 ―

〔学会発表〕　計4件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 相澤伸幸
2．発表標題 スペンサーの社会有機体説が明治日本のアカデミズムに与えた影響
3．学会等名 日本ヘルダー学会
4．発表年 2023年

1．発表者名 小池孝範
2．発表標題 明治日本における「宗教」の受容と道徳・宗教の分離
3．学会等名 日本ヘルダー学会
4．発表年 2023年

1．発表者名 寺川直樹
2．発表標題 歴史・道徳・形成－ヘルダーを手がかりに－
3．学会等名 日本ヘルダー学会
4．発表年 2023年

１．発表者名 小池孝範
２．発表標題 18世紀後半のドイツにおける公教育における道徳と宗教
３．学会等名 日本道徳教育学会
４．発表年 2020年

〔図書〕　計1件

１．著者名 笹田博通、佐藤安功、相澤伸幸、小池孝範、寺川直樹、松山雄三、金浜耕基	４．発行年 2024年
２．出版社 東北大学大学院教育学研究科	５．総ページ数 208
３．書名 近代西欧の教育思想と現代日本の道徳教育－道徳教育の学的基礎づけへ向けて－	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	佐藤　安功 (SATO Yasutaka) (00154112)	仙台高等専門学校・総合科学系文科・名誉教授 (51303)	
研究分担者	相澤　伸幸 (AIZAWA Nobuyuki) (20331259)	京都教育大学・教育学部・教授 (14302)	
研究分担者	寺川　直樹 (TERAKAWA Naoki) (50801990)	大谷大学・教育学部・講師 (34301)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	小池　孝範 (KOIKE Takanori) (80550889)	駒澤大学・総合教育研究部・教授 (32617)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関